

平成 27 年度環境省委託業務報告書

平成 27 年度石綿ばく露者の健康管理に
係る試行調査（北九州市）
委託業務報告書

平成 28 年 3 月
北九州市

一 目 次

1	調査目的	1
2	調査実施場所	1
3	調査実施期間	1
4	調査実施方法	1
	(1) 調査対象者	1
	(2) 内容	2
5	調査結果	3
	(1) 平成27年度の受診状況	3
	(2) 平成27年度の受診結果	4
6	今後の予定	4
7	調査資料	
	(1) 検査項目別人数	5
	(2) 年齢階層別人数	5
	(3) ばく露歴の集計	6
	(4) ばく露歴及び年齢階層分類表	6
	(5) ばく露歴と胸部CT画像所見のクロス集計	7
	(6) ばく露歴、年齢階層とCT画像所見のクロス集計	8
	(7) 平成27年度から石綿関連疾病と診断された者の診断状況	11
	(8) 平成27年度から石綿関連疾患と診断された者の労災、石綿救済法の認定状況	11
	(9) 石綿関連疾患と診断された者の発見契機別	12
	(10) 石綿関連疾患と診断された者の年齢階層別分類表	12
8	健康管理の試行に伴う課題の抽出	
	(1) 実施体制に関する課題	13
	(2) 既存の検診事業との連携に関する課題	13
	(3) 人員・施設等の確保に関する課題	14
	(4) 調査対象者に関する課題	15
	(5) 調査対象地域に関する課題	15
	(6) 検査内容・検査頻度に関する課題	15
	(7) 結果の通知及び保健指導に関する課題	16
	(8) 費用に関する課題	17
	(9) 精度の管理に関する課題	17
	(10) その他、健康管理の試行に伴って生じた課題	18

1 調査目的

環境省では、石綿のばく露歴や石綿関連疾患の健康リスクに関する実態把握を行うため、平成18年度から平成26年度において、「石綿ばく露健康リスク調査(以下、「リスク調査」という。)」の協力が得られた地方公共団体に居住していた住民等に対して、問診、胸部X線検査、胸部CT検査等を実施することにより、石綿ばく露の医学的所見である胸膜プラーク等の所見の有無と健康影響との関係に関する知見を収集してきた。(北九州市においては、平成21年度以降)

これまでの調査により一定の知見が得られたことから、環境省においては、平成27年度以降、石綿健康相談(仮称)の実施を見据えたモデル事業である「石綿ばく露者の健康管理に係る試行調査(以下「試行調査」という。)」を実施することを通じて、実施主体・既存検診(肺がん検診等)との連携方法・対象者・対象地域の考え方・検査頻度・事業に要する費用等の課題等について調査検討を行うこととなった。

北九州市においては、リスク調査(平成21年度～平成26年度)に引き続き、環境省から試行調査を受託することとし、地域住民に対し広報等で調査対象者を募集し、「質問票による石綿ばく露の聴取」、「胸部X線検査(既存検診である一般肺がん検診を活用)」及び「胸部CT検査」により、調査参加者の石綿ばく露の評価、保健指導を実施しその結果を集計した。また、試行調査を実施する上で明らかになった課題等の取りまとめを行った。

2 調査実施場所

北九州市総合保健福祉センター等
福岡県北九州市小倉北区馬借一丁目7-1等

3 調査実施期間

平成27年4月1日から平成28年3月31日

4 調査実施方法

(1) 調査対象者

調査対象者は、次のア、イのうち、試行調査の内容を理解し、協力に同意する者とした。

ただし、労働安全衛生法の石綿健康管理手帳を取得している又は交付要件に該当している者、石綿障害予防規則により職場等で石綿に関する特殊健康診断を受けることができる者、石綿関連疾患が原因で医療機関を受診している者は、継続的に石綿関連疾患に係る健康管理が行われていることから、本調査の対象外とした。

調査対象者は、108名で石綿ばく露の聴取のみの方を含む。

ア 平成16年以前に北九州市門司区に居住歴がある40歳以上の北九州市民

イ 過去に次の試行調査参加自治体の対象地域(対象期間)に居住歴がある40歳以上の北九州市民

(ア) 大阪府岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、熊取町、田尻町、岬町、大阪市、堺市及び河内長野市(いずれも平成2年以前)

(イ) 奈良県(平成元年以前)

(ウ) 神奈川県横浜市鶴見区(平成元年以前)

(エ) 岐阜県羽島市(平成元年以前)

(オ) 兵庫県西宮市(期間なし)、芦屋市(期間なし)、尼崎市(昭和30年から昭和50年)

(カ) 佐賀県鳥栖市(昭和33年から昭和61年)

(2) 内 容

ア 広 報

リスク調査に参加した調査対象者(調査の協力を辞退した者を除く)への参加案内状の送付に加え、市政だより、市ホームページ、市内医療機関でのポスター掲示、対象地区自治会の班回覧、石綿工場跡近隣地区住民への戸別チラシ配布、門司区内市民センター及び各区区役所へのチラシ配布により広く周知し、調査参加の募集を行った。

イ 申込受付及び面談

申込受付は北九州市総合保健福祉センター管理課において、面談は門司区の門司生涯学習センターで行った。面談参加者に対しては、調査協力に対する同意を得たうえで、看護師が質問票を用いて、呼吸器疾患等の既往歴、本人・家族の職歴、喫煙の有無、石綿ばく露歴などを詳細に聞き取り、本年度の調査対象者として登録した上で、一般肺がん検診(集団検診)受診への案内を行った。また、胸部X線よりも胸部CT検査の方が放射線リスクが高いことを説明し、胸部CT検査の受診を案内した。

ウ 検 査

調査対象者は、一般肺がん検診(集団検診)に参加し、胸部X線検査を受診した。

また、①本年度初めて試行調査に参加する者、②リスク調査に参加していた者のうち、平成26年度の未受診者と石綿有所見者については、北九州市が発行した受診券を指定医療機関に提出し、予約日時に胸部CT検査を受診した。なお、検査は、「九州労災病院門司メディカルセンター」、「九州労災病院」、「西日本産業衛生会」、「産業医科大学病院」、「北九州市立門司病院」の5つの指定医療機関で行うこととした。

エ 医学的所見の確認

胸部CT検査の受診者については、指定医療機関を通じて、次の画像所見①～⑨の有無の確認を行った。その際、一般肺がん検診で撮影した胸部X線画像データを取り寄せ、指定医療機関において胸部X線画像とともに胸部CT画像の読影を行った。

- ①胸水貯留 ②胸膜プラーク(限局性の胸膜肥厚) ③びまん性胸膜肥厚
- ④胸膜腫瘍(中皮腫)疑い ⑤肺野の間質影 ⑥円形無気肺 ⑦肺野の腫瘤状陰影(肺がん等)
- ⑧リンパ節の腫大 ⑨その他の所見(陳旧性結核病変など①～⑧以外の所見)

オ 保健指導等

(ア) 調査対象者の健康管理に役立てるため、次のとおり保健指導を行った。

- ① 調査対象者に受診カード(健康手帳)を配布し、検診結果を記載して健康管理に役立てるよう指導した。
- ② 石綿関連疾患及び石綿関連所見の概要を掲載したリーフレットを配布し説明した。
- ③ 石綿健康管理手帳及び石綿救済制度のリーフレットを配布し、該当するようであれば、窓口で相談するよう案内した。
- ④ 喫煙者に対しては、肺がん発症のリスクが増大するため禁煙指導を行った。
- ⑤ 一般肺がん検診の際に健康増進法に基づく市の特定健診も受診できる場合があるため当該健診の受診も勧奨した。
- ⑥ 今後も定期的に受診し健康管理に努めるよう指導した。

(イ) 特に有所見者については、次のとおり保健指導を行った。

- ① 精密検査又は医療の必要があると判断された者に対しては、認められた所見について説明し、すみやかに医療機関を受診し、医師の指示に従うよう指導した。
- ② 所見を有しているが、精密検査の必要がないとされた者に対して、認められた所見について説明し、直ちに医療機関の受診は必要ないが、経過観察を行うことが望ましい旨を指導した。

5 調査結果

調査対象者の平成27年度の一般肺がん検診（集団検診）、胸部CT検査の受診状況及び受診結果について、次のとおり取りまとめた。

（1）平成27年度の受診状況

ア 石綿ばく露歴の聴取及び保健指導

（ア） 面談を通じて石綿ばく露歴の聴取及び保健指導を実施した者は108人であった。内訳は、47歳から87歳までの男性64人、女性44人であった。年齢別に見ると60歳代が43人（39.8%）と最も多く、次いで70歳代が41人（38.0%）、80歳代が14人（13.0%）、40歳～50歳代の合計は10人（9.2%）であった（7調査資料（1）（2）・5ページを参照）。

イ 一般肺がん検診

（ア） 石綿ばく露歴の聴取及び保健指導を実施した者108人のうち、一般肺がん検診（集団検診）を受診した者は、99人（男性57人と女性42人）で、ばく露歴別状況としては、次のとおりであった。

男性は、ア「主に直接石綿を取り扱っていた職歴がある者」が35人（うち60歳～79歳は23人）と多く、女性は、ウ「家族に石綿ばく露の明らかな職歴がある者」が18人（60歳以上）と多くいた（7調査資料（3）（4）・6ページを参照）。

① ア「主に直接石綿を取り扱っていた職歴がある者」	42人	(42.4%)
② イ「直接ではないが、職場で石綿ばく露した可能性のある職歴がある者」	4人	(4.0%)
③ ウ「家族に石綿ばく露の明らかな職歴がある者」	18人	(18.2%)
④ エ「職域以外で石綿取り扱い施設や吹き付け石綿の事務室等に立ち入り経験がある者」	15人	(15.2%)
⑤ オ「上記ア～エ以外のばく露の可能性が特定できない者」	20人	(20.2%)

（イ） 一般肺がん検診（集団検診）受診者99人のうち、平成27年度（試行調査）で初めて受診した者は16人で、平成21年～平成26年（リスク調査）で一度でも受診したことがある者は83名であった。

（ウ） 一般肺がん検診（集団検診）受診者99人の居住地別状況（現在居住地）としては、次のとおりであった。

・北九州市門司区に居住している者	90人	(90.9%)
・北九州市門司区以外に居住している者	9人	(9.1%)

ウ 胸部CT検査

（ア） 一般肺がん検診（集団検診）受診者99人のうち、指定医療機関で胸部CT検査を受診した者は44人（男性29人と女性15人）であった（7調査資料（5）・7ページを参照）。

なお、胸部CT検査受診者44人のうち、平成27年度（試行調査）で初めて受診した者は15人で、平成21年～平成26年（リスク調査）で一度でも受診したことがある者は29名であった。

(2) 平成27年度の受診結果

ア 一般肺がん検診

(ア) 一般肺がん検診受診者99人のうち、「異常無し」が95人、「要精密検査」となった者は4人（うち人2人は、試行調査で胸部CT検査を受診）であった。

イ 胸部CT検査

(ア) 胸部CT検査受診者44人のうち、環境省指定の石綿関連所見（疑いを含む）が認められた者が17人で、ばく露歴分類別状況は次のとおりであった（7調査資料（5）・7ページを参照）。

① ア「主に直接石綿を取り扱っていた職歴がある者」	12人	(70.6%)
② イ「直接ではないが、職場で石綿ばく露した可能性のある職歴がある者」	0人	(0.0%)
③ ウ「家族に石綿ばく露の明らかな職歴がある者」	0人	(0%)
④ エ「職域以外で石綿取り扱い施設や吹き付け石綿の事務室等に立ち入り経験がある者」	3人	(17.6%)
⑤ オ「上記ア～エ以外のばく露の可能性が特定できない者」	2人	(11.8%)

(イ) 上記の環境省指定の石綿関連画像所見（疑いを含む）を有する17人のうち、石綿の可能性のある所見者は10人で、全員が胸膜プラーク所見（うち疑い2人を含む）を有していた。また、石綿の可能性のある者10人のばく露歴分類別では、次のとおりであった。

① ア「主に直接石綿を取り扱っていた職歴がある者」	8人	(80.0%)
② エ「職域以外で石綿取り扱い施設や吹き付け石綿の事務室等に立ち入り経験がある者」	1人	(10.0%)
③ オ「ばく露の可能性が特定できない者」	1人	(10.0%)

(ウ) また、平成27年度に初めて受診した者は1人（疑い）、平成26年度までに一度でも受診した者は9人（うち疑い1人）で、すべての者が今後、経過観察が必要であった。

6 今後の予定について

石綿関連疾病等が発症するまでの期間が非常に長いことを踏まえ、平成28年度も引き続き環境省から受託し、石綿ばく露による健康被害の不安を抱く者が健康管理の機会として活用してもらえるよう、効果的な事業の実施に努める。

7 調査資料

(1) 検査項目別人数

表1 項目別人数

受診内容	合計
	(人)
石綿ばく露の聴取	108
肺がん検診(胸部X線画像を取り寄せた者)	48
胸部CT検査	44
保健指導	108

※平成28年3月31日現在

(2) 年齢階層別人数

表2 年齢階層別人数

	合計		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
40歳未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
40～49歳	4	3.7%	3	4.7%	1	2.3%
50～59歳	6	5.5%	6	9.4%	0	0.0%
60～69歳	43	39.8%	26	40.6%	17	38.6%
70～79歳	41	38.0%	21	32.8%	20	45.5%
80～89歳	14	13.0%	8	12.5%	6	13.6%
90歳以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	108	100.0%	64	100.0%	44	100.0%

※石綿ばく露の聴取、肺がん検診、胸部CT検査、保健指導のいずれか1つ以上を受けた者

※平成28年3月31日現在

(3) ばく露歴の集計

表3: 調査対象者に関するばく露歴集計表

ばく露歴 ばく露歴分類	ア. 直接職歴 あり	イ. 間接職歴 あり	ウ. 家庭内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ.その他	小計		合計	
						計	うち 女性	計	うち 女性
ア	●					12	1	42	7
	●	●				1	0		
	●		●			1	0		
	●			●		2	0		
	●				●	13	2		
	●	●	●			0	0		
	●	●		●		0	0		
	●	●			●	0	0		
	●		●	●		2	1		
	●		●		●	3	2		
	●		●	●	●	5	0		
	●		●	●		0	0		
	●		●		●	0	0		
	●		●	●	●	0	0		
●		●	●	●	3	1			
イ		●	●			2	0	4	1
		●		●		0	0		
		●			●	0	0		
		●	●	●		1	0		
		●	●	●	●	1	1		
		●	●	●	●	0	0		
ウ			●	●		4	4	18	18
			●	●		0	0		
			●	●	●	13	13		
			●	●	●	1	1		
エ				●	●	4	0	15	2
オ					●	11	2	20	14
合計*	42	5	28	29	70	99	42	99	42
うち女性*	7	1	23	6	35				

※ 縦計については、重複計上により算定した。

※ 石綿ばく露の聴取のみの者を除く。

(4) ばく露歴及び年齢階層分類表

表4: 調査対象者に関するばく露歴分類と年齢階層別のクロス表

年齢階層	合計		ア. 主に直接職歴		イ. 主に間接職歴		ウ. 主に家庭内ばく露		エ. 主に立入・屋内 環境ばく露		オ.その他	
	計	うち 女性	計	うち 女性	計	うち 女性	計	うち 女性	計	うち 女性	計	うち 女性
40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40～49歳	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1
50～59歳	6	0	4	0	0	0	0	0	2	0	0	0
60～69歳	41	16	15	1	3	0	8	8	6	2	9	5
70～79歳	35	19	13	4	1	1	8	8	5	0	8	6
80～89歳	14	6	8	2	0	0	2	2	2	0	2	2
90歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	99	42	42	7	4	1	18	18	15	2	20	14

※平成28年3月31日現在

※石綿ばく露の聴取のみの者を除く。

(5) ばく露歴と胸部CT画像所見のクロス集計

表5: 調査対象者に関するばく露歴分類と画像所見のクロス集計表

5-1表: 胸部CTの画像所見について

	合計		ア主に直接職歴		イ主に間接職歴		ウ主に家庭内ばく露		エ主に立入・屋内環境ばく露		オその他	
	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性
調査対象者	99	42	42	7	4	1	18	18	15	2	20	14
胸部CT受診者	44	15	23	3	3	1	3	3	4	0	11	8
石綿関連所見(疑いを含む)実人数	17 (3)	2 (0)	12 (2)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	2 (0)	1 (0)
①胸水貯留	2 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
②胸膜プ ラーク(胸膜 肥厚斑)	10 (2)	2 (0)	8 (2)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
③びまん性 胸膜肥厚	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
④胸膜腫瘍 (中皮腫)疑い	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
⑤肺野の間 質影	5 (1)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)
⑥円形無気 肺	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
⑦肺野の腫 瘤状陰影 (肺がん等)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
⑧リンパ節 の腫大	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
②胸膜プ ラーク且つ ⑤肺野の間 質影あり ^{※1}	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
胸部CT 未受診者	55	27	19	4	1	0	15	15	11	2	9	6

※①～⑧は重複計上含む。

※()は所見疑いを再掲している。

※1 胸膜プ
ラーク且つ肺野の間質影がある者について、2所見のうち、いずれかが「疑い」であれば、()の所見疑いに計上している。

※石綿ばく露の聴取のみの者を除く。

(6) ばく露歴、年齢階層とCT画像所見のクロス集計

表5-2: 調査対象者に関する石綿関連所見が見られた者の年齢階層別(胸部CTの画像所見)

①~⑧の年齢階層別集計

①胸水貯留

年齢階層	合計		ア.主に直接職歴		イ.主に間接職歴		ウ.主に家庭内ばく露		エ.主に立入・屋内環境ばく露		オ.その他	
	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性
40歳未満	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
40~49歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
50~59歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
60~69歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
70~79歳	2 ()	0 ()	2 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
80~89歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
90歳以上	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
合計	2 ()	0 ()	2 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()

※()は所見疑いを再掲

②胸膜プラーク(胸膜肥厚斑)

年齢階層	合計		ア.主に直接職歴		イ.主に間接職歴		ウ.主に家庭内ばく露		エ.主に立入・屋内環境ばく露		オ.その他	
	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性
40歳未満	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
40~49歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
50~59歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
60~69歳	2 ()	0 ()	2 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
70~79歳	3 (1)	0 ()	3 (1)	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
80~89歳	5 (1)	2 ()	3 (1)	1 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	1 ()	0 ()	1 ()	1 ()
90歳以上	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
合計	10 (2)	2 ()	8 (2)	1 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	1 ()	0 ()	1 ()	1 ()

※()は所見疑いを再掲

③びまん性胸膜肥厚

年齢階層	合計		ア.主に直接職歴		イ.主に間接職歴		ウ.主に家庭内ばく露		エ.主に立入・屋内環境ばく露		オ.その他	
	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性
40歳未満	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
40~49歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
50~59歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
60~69歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
70~79歳	1 ()	0 ()	1 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
80~89歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
90歳以上	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
合計	1 ()	0 ()	1 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()

※()は所見疑いを再掲

④胸膜腫瘍(中皮腫)疑い

年齢階層	合計		ア.主に直接職歴		イ.主に間接職歴		ウ.主に家庭内ばく露		エ.主に立入・屋内環境ばく露		オ.その他	
	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性
40歳未満	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
40～49歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
50～59歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
60～69歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
70～79歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
80～89歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
90歳以上	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
合計	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()

※()は所見疑いを再掲

⑤肺野の間質影

年齢階層	合計		ア.主に直接職歴		イ.主に間接職歴		ウ.主に家庭内ばく露		エ.主に立入・屋内環境ばく露		オ.その他	
	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性
40歳未満	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
40～49歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
50～59歳	1 (1)	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	1 (1)	0 ()	0 ()	0 ()
60～69歳	1 ()	0 ()	1 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
70～79歳	1 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	1 ()	0 ()
80～89歳	2 ()	0 ()	1 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	1 ()	0 ()	0 ()	0 ()
90歳以上	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
合計	5 (1)	0 ()	2 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	2 (1)	0 ()	1 ()	0 ()

※()は所見疑いを再掲

⑥円形無気肺

年齢階層	合計		ア.主に直接職歴		イ.主に間接職歴		ウ.主に家庭内ばく露		エ.主に立入・屋内環境ばく露		オ.その他	
	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性
40歳未満	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
40～49歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
50～59歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
60～69歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
70～79歳	1 ()	0 ()	1 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
80～89歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
90歳以上	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
合計	1 ()	0 ()	1 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()

※()は所見疑いを再掲

⑦肺野の腫瘤状陰影(肺がん等)

年齢階層	合計		ア主に直接職歴		イ主に間接職歴		ウ主に家庭内ばく露		エ主に立入・屋内環境ばく露		オその他	
	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性
40歳未満	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
40～49歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
50～59歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
60～69歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
70～79歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
80～89歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
90歳以上	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
合計	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()

※()は所見疑いを再掲

⑧リンパ節の腫大

年齢階層	合計		ア主に直接職歴		イ主に間接職歴		ウ主に家庭内ばく露		エ主に立入・屋内環境ばく露		オその他	
	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性
40歳未満	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
40～49歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
50～59歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
60～69歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
70～79歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
80～89歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
90歳以上	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
合計	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()

※()は所見疑いを再掲

②胸膜プラーク且つ⑤肺野の間質影あり

年齢階層	合計		ア主に直接職歴		イ主に間接職歴		ウ主に家庭内ばく露		エ主に立入・屋内環境ばく露		オその他	
	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性
40歳未満	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
40～49歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
50～59歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
60～69歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
70～79歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
80～89歳	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
90歳以上	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
合計	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()

※()は所見疑いを再掲

※胸膜プラーク且つ肺野の間質影がある者について、2所見のうち、いずれかが「疑い」であれば、()の所見疑いに計上している。

表6-1:平成27年度から石綿関連疾患と診断された者の診断状況

	合計		ア主に直接職歴		イ主に間接職歴		ウ主に家庭内ばく露		エ主に立入・屋内環境ばく露		オその他	
	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性
試行調査が発見の契機												
a. 中皮腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
b. 肺がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c. 石綿肺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
d. 良性石綿胸水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e. びまん性胸膜肥厚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
試行調査以外が発見の契機												
a. 中皮腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
b. 肺がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c. 石綿肺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
d. 良性石綿胸水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e. びまん性胸膜肥厚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計												
a. 中皮腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
b. 肺がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c. 石綿肺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
d. 良性石綿胸水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e. びまん性胸膜肥厚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※()は所見疑いを再掲

※肺がんについては、石綿以外の原因によるものも含まれている。

表6-2:平成27年度から石綿関連疾患と診断された者の労災、石綿救済法の認定状況

	合計		ア主に直接職歴		イ主に間接職歴		ウ主に家庭内ばく露		エ主に立入・屋内環境ばく露		オその他	
	労災	石綿救済	労災	石綿救済	労災	石綿救済	労災	石綿救済	労災	石綿救済	労災	石綿救済
	計	うち	計	うち	計	うち	計	うち	計	うち	計	うち
試行調査が発見の契機												
a. 中皮腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
b. 肺がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c. 石綿肺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
d. 良性石綿胸水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e. びまん性胸膜肥厚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
試行調査以外が発見の契機												
a. 中皮腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
b. 肺がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c. 石綿肺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
d. 良性石綿胸水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e. びまん性胸膜肥厚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計												
a. 中皮腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
b. 肺がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c. 石綿肺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
d. 良性石綿胸水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e. びまん性胸膜肥厚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※()は所見疑いを再掲

※肺がんについては、石綿以外の原因によるものも含まれている。

表7: 石綿関連疾患と診断された者の発見契機別

	合計		試行調査		試行調査以外													
	合計	うち女性	計	うち女性	住民健診		職場健診		人間ドック		自覚症状		他疾患治療中		その他		不明	
					計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性
a. 中皮腫	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
b. 肺がん	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
c. 石綿肺	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
d. 良性石綿胸水	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
e. びまん性胸膜肥厚	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

※()は所見疑いを再掲

※肺がんについては、石綿以外の原因によるものも含まれている。

表8: 平成27年度から石綿関連疾患と診断された者の年齢階層別分類表

年齢階層	合計		a. 中皮腫		b. 肺がん		c. 石綿肺		d. びまん性胸膜肥厚		e. 良性石綿胸水	
	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性	計	うち女性
40歳未満	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)	
50~59歳	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)	
60~69歳	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)	
70~79歳	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)	
80~89歳	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)	
90歳以上	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)	
合計	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

※()は所見疑いを再掲

※肺がんについては、石綿以外の原因によるものも含まれている。

8 健康管理の試行に伴う課題の抽出

(1) 実施体制に関する課題

・行政機関（市区町村、都道府県、国）、医療機関、調査対象者との連絡調整

- ア 調査対象者のうち、胸部CT検査の受診予定者であれば、「石綿健康相談（面談）」、「肺がん検診（胸部X線検査）」、「胸部CT検査」と所在地が異なる3つの会場に、3日足を運んでもらう必要がある。これらの予定日の間隔が空いていることから、調査対象者が忘れないよう、それぞれの予定日前日に電話連絡を行う必要があること。
- イ 肺がん検診（胸部X線検査）で「要精密検査」になったにもかかわらず、病院受診していない場合は、肺がん検診（胸部X線検査）の制度に基づき、保健師による病院受診勧奨（保健指導）が行われる。このため、調査対象者が肺がん検診（胸部X線検査）で「要精密検査」となった場合等の対応について、市の肺がん検診担当部署との情報連絡を行ったうえで、保健指導が重複しないように注意する必要があること。
- ウ 「肺がん検診（胸部X線検査）」と「胸部CT検査」の会場が異なることから、石綿健康相談（面談）時において、「肺がん検診（胸部X線検査）」と「胸部CT検査」に持参する書類を間違えないよう、調査対象者に十分に説明しておく必要があること。

(2) 既存の検診事業との連携に関する課題

・既存の検診事業で実施する胸部X線結果の画像を活用すること

- ア 肺がん検診の胸部X線画像データ（CD保存）の取得には、調査対象者の肺がん検診受診後、肺がん検診実施機関の作業期間として1ヶ月程度要し（複数医師による読影後、調査対象者を再確認し、画像データをCDへ保存）、また、胸部CT検査を実施する指定医療機関に画像データ（CD保存）を数日前に持ち込む必要があることから、これらを考慮し、指定医療機関での胸部CT検査の受診予定日を肺がん検診受診予定日の1ヶ月半後に設定しなければならないこと。
- イ 胸部CT受診予定者が肺がん検診を予定日時に受診しなかった場合、当該者に再度、肺がん検診受診希望日時を確認し、肺がん検診実施機関に伝えるとともに、指定医療機関と予約済の胸部CT検査日時の再調整を行う必要があること。
- ウ 石綿健康相談（面談）時において、胸部CT検査受診予定者で、既に肺がん検診（胸部X線検査）を受診していたことを確認した場合、肺がん検診実施機関に対して、当該調査対象者の胸部X線画像データの検索及び作成（CD保存）を改めて依頼しなければならないこと。
- エ 調査対象者の胸部X線画像データ（CD保存）及び所見結果を確実に取得する必要があるため、肺がん検診受診の「調査対象者」と「その他の者（一般）」を区分するため、調査対象者専用の肺がん検診問診票を使用するとともに、調査対象者の肺がん検診受診予定を一覧（受診者名、受診日時、受診会場）にし、肺がん検診実施機関に提供することが必要であること。
- オ 肺がん検診実施機関において、繁忙時期（5月～7月）と試行調査の検診時期が重なり、業務がより繁忙になったこと。

<p>・その他</p> <p>ア 肺がん検診（胸部X線検査）と胸部CT検査の実施場所、検診日が異なり、また、日程の間隔も空いていることから、指定医療機関において既に予約済みの胸部CT検査を調査対象者が体調不良等の理由で受診できず、キャンセルしなければならない事例が発生したこと。</p> <p>イ 胸部CT検査受診予定者で肺がん検診（胸部X線検査）を受診した結果、「要精密検査」となった者の対応として、胸部CT検査が既に予約済であることから、胸部CT検査のみ無料であることを説明し、本人の同意、了承を得たうえで胸部CT検査を受診してもらった。しかし、胸部X線検査と胸部CT検査が同一の実施機関であれば、医師の判断で的確な対応が可能と思われるが、実施機関が異なることから、胸部CT検査の受診可否の判断が非常に難しいこと。</p> <p>ウ 平成26年度までは、調査対象者が「石綿健康管理手帳」、「石綿救済制度」の申請をする際、胸部X線画像の借用依頼があった場合は、これまでは当課において無償で貸与してきた。しかし、肺がん検診（胸部X線検査）のみを受診した方については、当課が胸部X線画像データ（CD保存）を取得しないため、調査対象者個人が、肺がん検診実施機関から借用又は有償取得することになったこと。</p>
--

（3）人員・施設等の確保に関する課題

<p>・読影を行う石綿関連疾患の専門家</p> <p>※特になし</p>

<p>・胸部CT検査等を実施する医療機関</p> <p>ア 胸部CT検査を実施する指定医療機関内の人事異動等に伴い読影を行う担当医師が変更する可能性はある。よって、読影を実施する医師の石綿に関する最新の医学的知識等の習得や読影の向上の面から、今年度、環境省で開催した「読影講習会」には、肺がん検診実施機関の担当医師だけではなく、胸部CT検査を実施する指定医療機関の担当医師の参加も促す必要があること。</p>

<p>・保健師・事務職員等の非常勤職員の確保、トレーニング</p> <p>ア 石綿健康相談（面談）時の保健指導を行う保健師（非常勤職員）の確保（雇用）が非常に困難であること。</p> <p>イ 既に石綿健康相談（面談）を開始していたことから、環境省主催の保健指導講習会には、専任担当者が参加し、石綿健康相談（面談）を行う者（看護師）に伝達を行った。今後は、保健指導の充実の面から、石綿健康相談（面談）を行う者（看護師）にも日程調整して、できるだけ参加させる必要があること。</p> <p>ウ 環境省主催の保健指導講習会について、石綿疾患等の講義のみではなく、効果的な保健指導の実施方法などより実践的な効果を期待できる研修機会の場としての活用も必要であること。</p>
--

(4) 調査対象者に関する課題

・年齢・性別・石綿ばく露歴等を踏まえた調査対象者の選定

※特になし。

・その他

ア 以前調査に参加した者が近年の転居者調査に参加していたことを知らずに、毎年、調査参加案内を送付していた。今後、転居者調査に参加している者の情報を把握することが必要であること。

イ 過去受診者で「石綿健康管理手帳」を取得したかどうかを確認する方法として、調査対象者本人への聞き取り（アンケート調査等）しか方法がないこと（福岡労働局に相談したが、本人の同意がなければ教えられないとのことであった。）。

(5) 調査対象地域に関する課題

・市区町村内における石綿ばく露地域の考え方

ア 「以前、住んでいた住居の壁が石綿であった。」「石綿の建物の解体が近くで行われていた。」「直接アスベストに触れる業務に就いていた。」と不安を抱く調査対象地域（門司区）外の居住者の声を考慮し、将来的に石綿に関する検診制度を創設する場合は、対象地域を限定せず、肺がん検診（胸部X検査）と同様、市内居住者全員を対象とする制度が必要であること。

(6) 検査内容・検査頻度に関する課題

・調査対象者や前回の検査結果等に応じた検査の頻度

ア 肺がん検診（胸部X線検査）については調査対象者全員を受診対象とし、胸部CT検査については、原則、平成26年度の胸部CT検査において、
 (ア) 異常所見なしの者は、2～3年間隔で受診
 (イ) 石綿所見で経過観察の者は、毎年胸部CT検査を受診
 としたが、今後の胸部CT検査対象を選定するにあたり、「有効性評価に基づく肺がん検診ガイドライン（2006年11月）」に示されているような検診間隔など、石綿に関しても具体的な基準があれば、調査対象者の健康管理に適切に対応できること。

・胸部X線検査等の画像の取扱い

ア 肺がん検診での胸部X線検査の画像は、データとしてCDに保存し、一般肺がん検診実施機関から所見結果とともに有償で取得し、受け取った画像データ（CD）は、指定医療機関に持ち込み、胸部CT検査の画像とともに指定医療機関が読影、評価しているが、平成26年度までの調査に比べて画像データの取得、持ち込みに関する事務、その際の画像データの確認、管理に関する事務が発生していること。

(7) 結果の通知及び保健指導に関する課題

・石綿関連所見が見つかった場合、見つからなかった場合の対応

※特になし。

・調査対象者の不安への対応

ア 過去受診者は、問診、検査受診を重ねたことにより、石綿に関する所見等に対して、ある程度の知識が蓄積されているが、石綿所見を有するにもかかわらず、「石綿健康管理手帳」、「労働災害及び石綿救済制度」が認定されないことにより、定期的な検診の場が確約されず不安を抱いている者への対応として、調査への参加等定期的な検診受診を勧奨するしかないこと。

イ 調査対象者の健康管理を考慮すると、胸部CT検査の受診時に、指定医療機関担当医師から、受診結果（所見）に基づき、疾患や症状などを詳しく説明してもらうことが最も効果的であることから、受診時にしっかり担当医師から説明を受けるよう調査対象者への指導が必要であること。また、肺がん検診のみの受診者は集団検診のため、こうした対応ができないこと。

ウ 今回、配布した「受診カード」（健康手帳）について、受診日等を記録するよう指導したが、次の調査において、当該「受診カード」（健康手帳）を持参させ、結果を記載しているかなど確認することが必要であること。

・その他

ア 各指定医療機関から受けた「画像所見シート」の結果について、改めて確認しなければならないケースがあったため、石綿関連所見、石綿以外の所見、経過観察、結果通知等の区分に関し、担当医師がわかりやすく記述できる書式の工夫が必要であること。

イ 「受診カード」（健康手帳）を配布した調査対象者には、次回、調査に参加しない場合でも、肺がん検診（胸部X線検査）の受診を確認する必要があるが、調査対象者本人に確認が取れない場合は、肺がん検診実施機関に直接確認する方法しかなく、時間と労力を要し無償での協力が得られるのか、大変疑問であること。

ウ 新規の申込者で石綿のばく露歴があり、何らかの健診で異常を指摘（治療、精密検査が必要）された者から、調査で胸部CT検査を受けたいとの相談があったが、これは「胸部CT検査が精密検査と同じもの」と間違った認識を持っていることによるもので、こうした認識を改めることも必要であること。

(8) 費用に関する課題**・既存の検診事業に係る費用負担の在り方**

ア 既存の肺がん検診の検査費用は無料（喀痰検査は有料）であるが、肺がん健診実施機関からの胸部CT検査受診予定者の胸部X線画像データ（CD保存）の取得と、胸部CT検査を実施する指定医療機関においての胸部X線画像データ（CD保存）の読影は有償対応している。よって、胸部CT受診予定者が肺がん検診受診後、体調が悪く病院を受診するなどの理由で胸部CT検査をキャンセルした場合、既に肺がん検診実施機関が胸部X線画像データ（CD保存）を作成済であることから、取得経費が必要となること。

・石綿対策の専門家の招へいに係る費用

※特になし。

・画像データ等、健康管理を通じて得られた情報の保存に係る費用

ア 今年度から画像フィルムは取得しないことから、胸部X線及び胸部CT画像データ（CD）のみ管理することとなる。
調査対象者の石綿健康管理手帳等の申請の際、画像データ（CD）を無償で貸し出すため、調査対象者別のファイルに当該画像データ（CD）を含めて管理することが効率的であり、こうした管理に係る経費が必要であること。

(9) 精度の管理に関する課題**・検査や読影、データ管理等の精度管理の方法、事業評価の方法**

ア 当該年度の胸部CT検査受診の有無を決定するためには、調査対象者全員の過去の受診状況（年度、結果）等の個別情報をデータ管理しておく必要があるが、新規の調査参加者が増えていくなか、約500人分の諸情報を管理しなければならない。また、全ての個人情報にパスワードを設定し漏洩がないよう管理を徹底しておかなければならず、事務担当者の負担が大変大きいこと（今後、調査が継続されるのであれば、調査参加都市で統一した石綿専用データ管理システムが導入されることを期待すること。）。

イ 石綿関連所見がある者は、通常と比較し肺がん等の発症リスクが高いことから、調査対象者の健康管理の機会として肺がん検診を利用する意義は大きい。肺がん検診はあくまで肺がんの発見を目的とした検診であり石綿に特化した検診ではないこと。また、石綿所見の評価には胸部CT検査と長期かつ継続的な受診管理が必要となること。

ウ 肺がん検診での胸部X線検査画像データを指定医療機関で読影する場合、所属施設の機器で撮影した画像データではないので、読影しづらいとの担当医師の声（一部）があること。

(10) その他、健康管理の試行に伴って生じた課題

・自治体主導ならびに企業主導の検診（例：石綿関連企業による住民検診等）とのすみわけ、両立について

ア 基本的には、自治体実施の検診は一般市民を対象とし、労働者に特化した検診とは区別すべきである。

イ しかし、調査に継続参加されている方で、過去の勤務先が存在しない方など石綿業務に従事したことを証明できない方は、「石綿健康管理手帳」や「労災」の対象にならず、この調査を定期的な健康管理の機会（検診）として受診している。また、申請を行えば、石綿健康管理手帳の取得可能な方の中でも、「高齢で手続き等が煩わしい。」との理由から、身近で受診できる当該調査を選択し参加しており、今後、石綿健康管理手帳等の対象基準、手続きを緩和し上記のような方が制度の対象となるよう環境省と厚生労働省との協議が必要であること。

・その他

ア 石綿健康相談（面談）については、調査対象者の利便性を考慮し、調査対象地域内（門司区内所在）で実施している。また、過去に門司区に居住し現在は門司区外（市内）に居住している方で、門司区の石綿健康相談（面談）会場に出向けない方の石綿健康相談（面談）については、当課（小倉北区内所在）において実施している。

イ しかし、今年度から過去に他都市の試行調査対象地域に居住していた方も調査対象に追加されることになり、門司区外（市内）居住の調査対象者も今後、増加していくことは考えられる。

ウ 上記を考慮すると、市内全域（7行政区に各一箇所）において、又は地域の肺がん検診実施会場（百箇所以上）において、石綿健康相談（面談）を実施することが好ましいが、試行調査の段階では困難である。

エ 複数の場所での石綿健康相談（面談）の実施には、人員（保健師又は看護師）が必要となるが、石綿専用の非常勤の保健指導実務者として、保健師、看護師の雇用（確保）も非常に難しく、繁忙である常勤の保健師の負担を強いることも大変難しい。また、肺がん検診実施機関に対して、肺がん検診実施会場（集団検診）の問診時において、石綿のばく露歴聴取など長時間の面談を無償で依頼することは非常に厳しいこと。

オ 上記のことを含め抽出した様々な課題を考慮した場合、「受診者の利便性」、「迅速かつ的確な読影」、「医師等による適切な保健指導と受診者の健康管理」、「事務の効率化」の面から、国が目指す石綿に関する検診制度の実施に当っては、肺がん検診（集団検診）の活用ではなく、石綿独自の指定医療機関での個別検診（胸部X線検査、胸部CT検査）として実施することが最も有効な手法であること。

平成27年度環境省委託業務報告書
平成27年度石綿ばく露者の健康管理に伴う試行調査（北九州市）委託業務

平成28年3月31日

発注者 環境省総合環境政策局
環境保健部企画課石綿健康被害対策室
TEL：03-3581-3351(内線6387) FAX：03-5510-0122
E-mail ISHIWATA@env.go.jp

受託者 住所 福岡県北九州市小倉北区馬借1丁目7番1号
名称 北九州市（保健福祉局総合保健福祉センター管理課）